

# ◇◆彫刻◆◇

## 表現と材料について

～小学校高学年以上用～

### ●彫刻って何？どこにあるの？

『公園の黒っぽくてちょっと緑色の偉そうな人…』

『駅の前の手を上げた女の人、あれって彫刻でしょう？』

『公園ならあの丸っこい大きな石ころみたいなものや四角いの、あれも彫刻？』

『デパートの洋服売り場にも人が立っているけどあれは彫刻？』



みんなもきっと見たことがある彫刻。でも彫刻っていったいどんなものでしょうか？  
ちょっと考えてみましょう。

### ◇彫刻の材料◇

#### ●彫刻はどんな材料でできているのかな？

木や石や金属（鉄、ブロンズ、ステンレス）や、焼いた粘土（テラコッタ）、石膏・プラスチックなどいろいろな材料で作られます。

→【会場に行ったら…】

どの彫刻が、どんな材料でできているか、見てみよう！

### ◇彫刻のつくりかた◇

#### ●どんな方法で作るのかな、作り方の順番は？

○どの材料で作るかによって作り方はそれぞれ違います。

○木や石は大きなかたまりを「のみ」という道具を使い、削って作ります。

○金属や焼いた粘土や石膏・プラスチックを使って作る場合は、はじめに、木の心棒に土の粘土をつけて作品の形を作り、その後に石膏を使って型を取り、その型の中に流し込んで作ります。

☆石膏（せっこう）ってどんなもの？

「石膏」はもともとは白い粉。これを水にまぜると牛乳みたいになって、10分くらいするとクリームみたいにとろとろになります。20分くらいたつと入れておいた容器の形にカチカチに固まってしまいます。石膏はたとえば、歯医者さんが歯の形を取って新しい歯を作るときにも使っています。

この型取り方法を「石膏取り」と呼びます。この方法で、最初に心棒を入れて土の粘土で作ったものと同じ形ができあがり。

○どの材料でも、作る人は最後に一番素敵に見える色は何かな、と考えて、絵の具や薬、いろいろの塗料（ペンキやニス・漆など）そのほかお茶やお風呂の入浴剤など、思いもつかないようなものも使い、色付けをします。絵の色は違うけれど、彫刻の色もなかなか面白いものです。

→【会場に行ったら…】

○このほかにもいろいろな方法があって、みんな次々と新しい材料や作り方を考え出しては、作品を発表しています。展覧会場に行ったら、どんな作り方をしているのか考えてみましょう！

## ◇彫刻の気持ち??◇

●彫刻を見ていると、どんな気持ちになって、どんな気持ちが伝わってくる？

「朝起きて空を見て、ニュースや新聞を見て、食事をして、水を飲んで、友達とはなしをして、旅行に行って、森や海辺を歩いて、夜寝る前に、…いろいろなことを考えて、新しいことを発見して、いっぱいびっくりして、静かな気持ちにもなって、こんなときに、心の中にはいろいろな『気持ちの種』が生まれてきます。」

「『気持ちの種』、気持ちって、目には見えなくて、種のままでは小さくて…だから花を咲かせてみんなにも見てほしいと考えて…」

○目には見えない気持ちを、どんな形にしてやると、みんなに見えるようになるのでしょうか。そしてそれはどんな色でしょうか。

「本当の気持ち」

それは人間の形？動物の形？丸い形？三角の形？

それは木の色？石の色？金属の色？

○「気持ちを形にしてみると、人や動物の形になるのかな…？」

そんなことを考えて、工夫してできたものが『彫刻』なのです。

だから作品を見るみんなも考えてみてください…

「太くて、大きい」と…強い気持ち？

「つるつるしている」と…優しい気持ち？冷たい気持ち？気持ちいい感じ？

「尖っている」と…ちょっと怖くて痛そう？

「ざらざらしている」と…けんかしたくなる？それともあったかい気持ち？

「手を開いている」と…元気が出てくる？希望を感じる？お断りというような感じ？

「丸い形」は…楽しい気持ち？終わりがいい？「みんな」っていう感じ？

○どんな形→→→どんなきもち？

「作者の気持ち？」それとも「君の気持ち？」

今のあなたの気持ちはどんな形、どんな作品があなたの気持ちですか？

てらん会場で探してみてください。